

（6）リハビリテーションにおける医療と介護の 連携に関する調査研究 （速報版）

(6)リハビリテーションにおける医療と介護の連携に関する調査研究事業

1. 調査の目的

- 平成26年度診療報酬改定において、平成26年3月31日までとされていた、維持期リハビリテーション※について、原則として次回診療報酬改定(平成28年3月31日)までとされ、その際、介護保険におけるリハビリテーションの充実状況等を確認することとなっている。特に、介護保険におけるリハビリテーションは、身体機能の訓練に偏りがちのアプローチから、活動・参加を重視するアプローチへの変革が求められており、このような提供体制の見直しに伴う課題の把握が急務とされている。本調査では医療保険サービスから介護保険サービスに円滑に移行するための方策の検討に資する調査を実施する。※算定上限日数を超えた要介護被保険者等に対する維持期の脳血管疾患等リハビリテーション、運動器リハビリテーションのこと。

2. 調査方法

- 脳血管疾患等リハビリテーションまたは運動器リハビリテーション実施病院、通所リハビリテーション事業所、個別機能訓練加算または運動器機能向上加算算定通所介護事業所、居宅介護支援事業所、各1,000事業所を対象とし、調査票を郵送配付・郵送回収した。病院、通所リハビリテーション事業所、通所介護事業所では、患者・利用者を対象とした調査を実施した。対象者は、病院は、調査日に外来で維持期リハビリテーションを受けた患者全員、通所リハビリテーション事業所、通所介護事業所では、調査日の利用者から無作為に1/5抽出した。患者・利用者本人が記入する調査票と病院・事業所のリハビリ職員が記入する調査票の2部構成として、番号で突合してデータセットとした。
- 回収数は、病院は409施設(有効回収率38.3%)、通所リハビリテーション事業所は568事業所(同55.4%)、通所介護事業所は502事業所(同48.9%)、居宅介護支援事業所は682事業所(同65.2%)であった。

3. 調査結果概要

- 通所リハビリテーションの利用者の要介護度は、「要支援1～要介護2」が75.3%であった。
- 医師のリハビリに関する指示内容は、「心身機能維持」が71.8%、「ADL・IADLの維持」が67.4%であった。
- リハビリ職員が提供しているリハビリの主な目的は「心身機能関連」が61.3%であった。
- リハビリの実施内容は、「筋力トレーニング」等の心身機能訓練関連の実施率が高かった。「排泄・入浴などのADL訓練」は8.2%、「社会参加訓練」は2.2%であった。
- 本人のリハビリ継続理由は、「身体機能を治したい」が79.0%、次いで「筋力や体力をつけたい」が75.7%であった。「排泄や入浴などの動作ができるようになりたい」が56.0%、「社会的活動ができるようになりたい」が42.3%であった。
- 身体機能やADLの今後の見通しについて「説明を受けていない」が44.8%であり、その場合、説明を「受けたかった」が51.5%と約半数であった。
- 通所リハの職員等から地域の体操教室等の説明を受けたことが「ある」は22.0%であったが、受けた場合には利用したいと「思った」が57.0%であった。

(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

(回収数)

- 病院調査の有効回収率は38.3%、通所リハビリテーション事業所調査は55.4%、通所介護事業所調査は48.9%であった。(図表1)

(回答病院・事業所の基本情報)

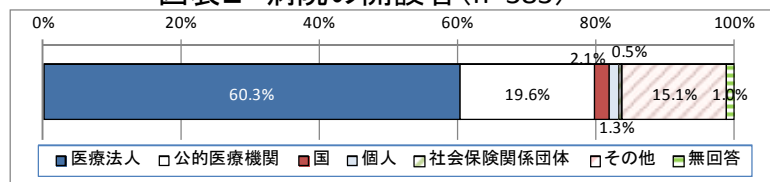
- 病院の開設者は、「医療法人」が60.3%、「公的医療機関」が19.6% (図表2)、病床数は平均187.9床であった (図表3)。
- 通所リハビリテーション事業所の開設主体は「介護老人保健施設」が43.3%、「病院」「診療所」がそれぞれ27.4%であった (図表4)。
- 通所介護事業所の開設主体は「営利法人」が51.3%であった。(図表5)

図表1 発送数・回収数・回収率

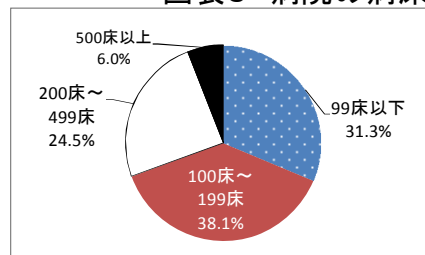
	発送数 (病院・事業所)	回収数 (病院・事業所数)	回収率	有効回収数	有効回収率	患者・利用者調査 (職員記入分)有効回収数	患者・利用者票 (本人記入分)有効回収数
病院(外来リハ)調査	1,000件	409件	40.9%	383件	38.3%	491件	460件
通所リハビリテーション事業所調査	1,000件	568件	56.8%	554件	55.4%	3,302件	2,725件
通所介護事業所調査	1,000件	502件	50.2%	489件	48.9%	688件	546件

※通所介護事業所の利用者調査は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のいずれかがいる事業所に限定して行った。

図表2 病院の開設者(n=383)



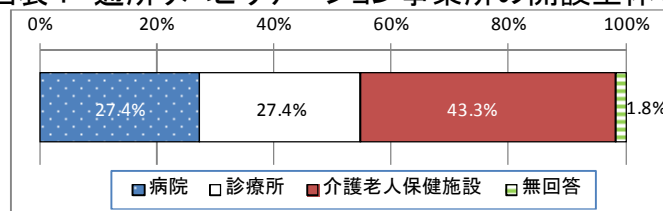
図表3 病院の病床規模(n=383)



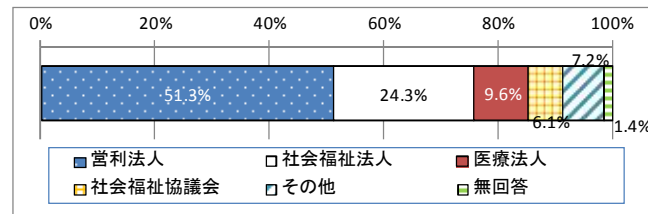
病床数(床) (n=383)

平均値	187.9
標準偏差	154.0
中央値	145.0

図表4 通所リハビリテーション事業所の開設主体(n=554)



図表5 通所介護事業所の開設主体(n=489)



※ 通所リハビリテーション事業所の開設主体の分布は、他の全数調査(介護給付費実態調査)と概ね相違なく、偏りが無いことを確認した。病院は、脳血管疾患等リハビリテーションまたは運動器リハビリテーションを実施している病院に限定、通所介護事業所は個別機能訓練加算または運動器機能向上加算を算定している事業所に限定して調査を実施した。これらの母集団に対する一般的な全数調査は行われていないため、既存調査との比較は行っていない。

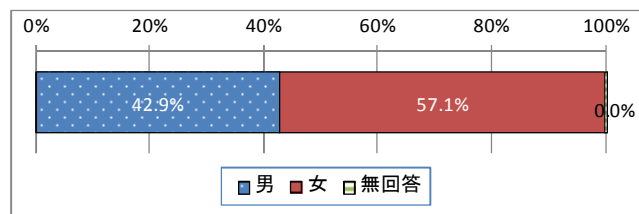
(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

【通所リハビリテーション事業所調査の結果】

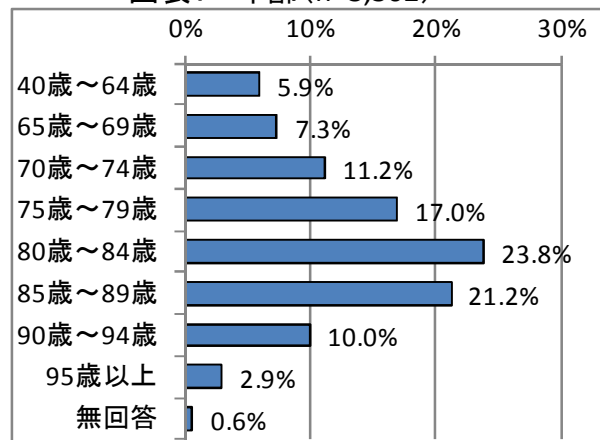
(通所リハビリテーション事業所調査の利用者の基本属性)

- 利用者の性別は、「男性」が42.9%、「女性」が57.1%であった。(図表6)
- 年齢は、平均80.1歳、「80歳～84歳」が23.8%であった。(図表7)
- 要介護度は、「要介護1」が25.8%、「要介護2」が24.4%で、「要支援1～要介護2」は75.3%であった。(図表8)
- 障害高齢者の日常生活自立度は、「A」が47.5%で最も多かった。(図表9)
- 認知症高齢者の日常生活自立度は、「自立」が36.3%と最も多かった。(図表10)

図表6 性別(n=3,302)

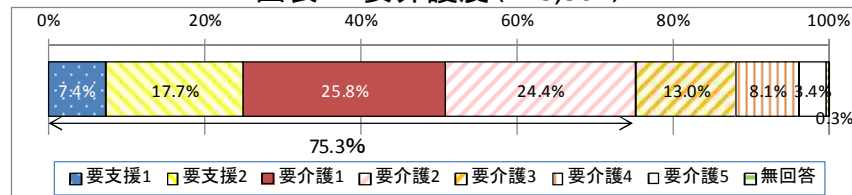


図表7 年齢(n=3,302)

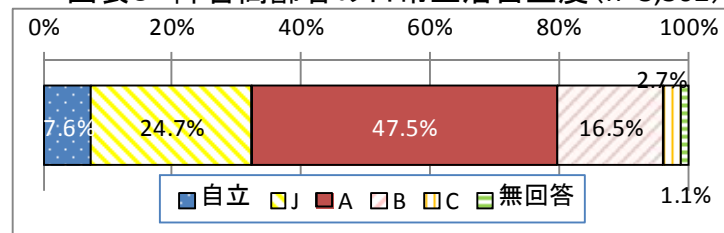


	回答件数	平均値	標準偏差	中央値
年齢(歳)	3,281	80.1	9.1	81.0

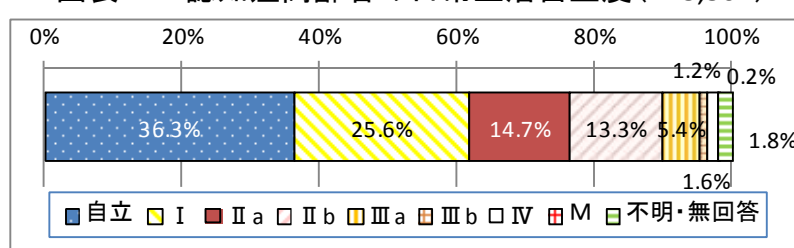
図表8 要介護度(n=3,302)



図表9 障害高齢者の日常生活自立度(n=3,302)



図表10 認知症高齢者の日常生活自立度(n=3,302)



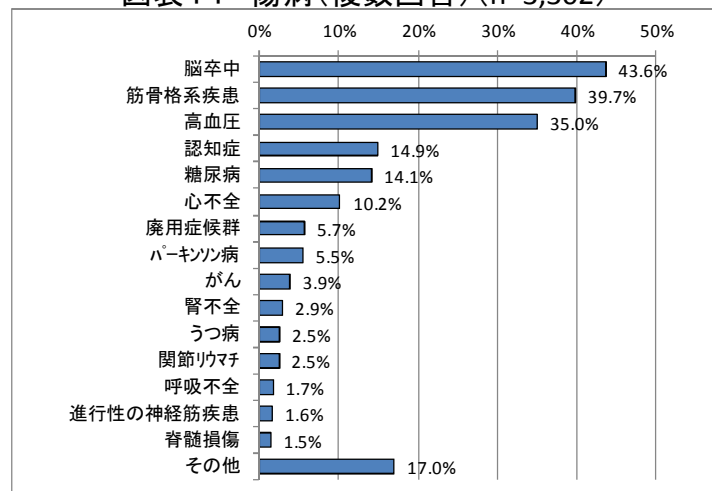
(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

【通所リハビリテーション事業所調査の結果】

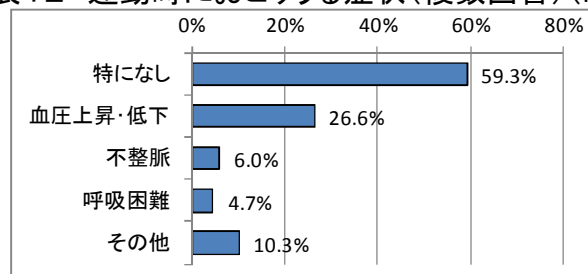
(利用者の傷病等)

- 傷病は「脳卒中」が43.6%、「筋骨格系疾患」が39.7%であった。(図表11)
- 運動時おこりうる症状は「特になし」が59.3%、「血圧上昇・低下」が26.6%であった。(図表12)
- 医療行為は「要介護4、5」では、「いずれか該当あり」が11.1%で、「要支援1～要介護3」(1.6%)に比べ高かった。「要介護4、5」では「胃瘻・腸瘻」が5.5%であった。(図表13)
- 退院日から通所リハビリテーションの利用開始までの期間は「1週間以内」が23.7%であった。(図表14)

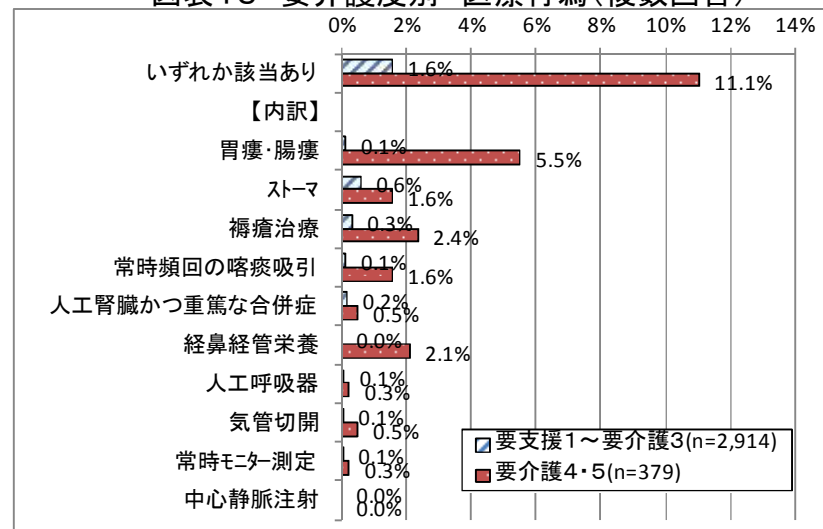
図表11 傷病(複数回答)(n=3,302)



図表12 運動時におこりうる症状(複数回答)(n=3,302)

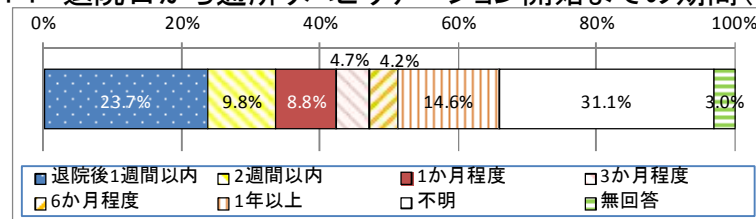


図表13 要介護度別 医療行為(複数回答)



※ 要介護度の不明が9件あったが、図中には記載していない。

図表14 退院日から通所リハビリテーション開始までの期間(n=3,302)



(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

【通所リハビリテーション事業所調査の結果】

(ADL・IADLの実行状況、リハビリの医師の指示内容、リハビリ職員のリハビリの目的)

○ ADLの実行状況は、「移動」は「自立」が51.1%、「食事」は81.9%であった。(図表15)

○ IADLの実行状況は「バスや電車で一人で外出」を「していない」が69.4%であった。(図表16)

○ 医師のリハビリに関する指示内容は、「心身機能維持」が71.8%、「ADL・IADLの維持」が67.4%だった。(図表17)

○ リハビリ職員が提供しているリハビリの主な目的は「心身機能維持」が47.1%、「心身機能回復」が14.2%で、合わせると「心身機能関連」が61.3%を占めた。(図表18)

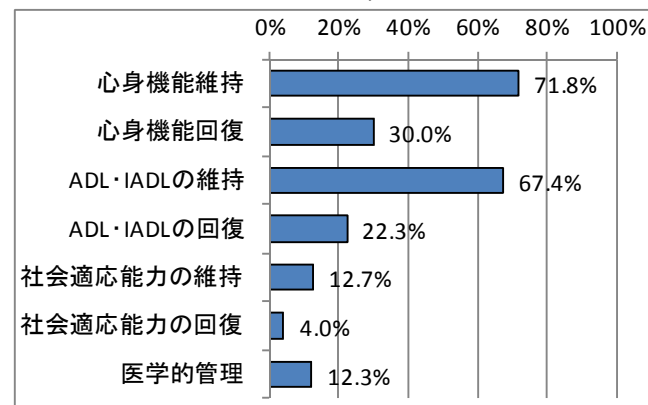
図表15 ADLの実行状況(n=3,302)

	移動		食事		排泄		入浴		着替え	
総数	3,302	100.0%	3,302	100.0%	3,302	100.0%	3,302	100.0%	3,302	100.0%
自立	1,688	51.1%	2,705	81.9%	2,194	66.4%	765	23.2%	1,521	46.1%
見守り	819	24.8%	347	10.5%	334	10.1%	462	14.0%	419	12.7%
一部介助	537	16.3%	170	5.1%	580	17.6%	1,618	49.0%	1,110	33.6%
全介助	237	7.2%	54	1.6%	174	5.3%	378	11.4%	208	6.3%
していない	2	0.1%	5	0.2%	0	0.0%	45	1.4%	13	0.4%
把握していない	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	14	0.4%	11	0.3%
無回答	19	0.6%	20	0.6%	20	0.6%	20	0.6%	20	0.6%

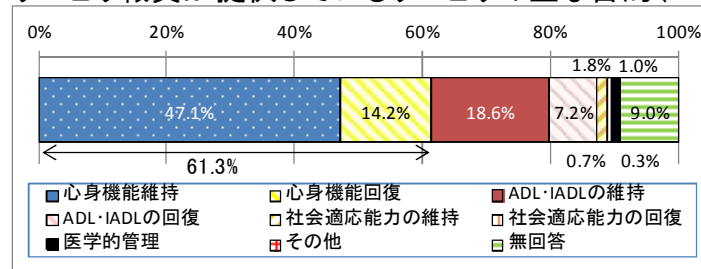
図表16 IADLの実行状況(n=3,302)

	バスや電車で一人で外出		日用品の買い物		食事の支度	
総数	3,302	100.0%	3,302	100.0%	3,302	100.0%
自立	298	9.0%	377	11.4%	372	11.3%
見守り	236	7.1%	208	6.3%	78	2.4%
一部介助	232	7.0%	438	13.3%	379	11.5%
全介助	121	3.7%	184	5.6%	187	5.7%
していない	2,293	69.4%	1,944	58.9%	2,154	65.2%
把握していない	102	3.1%	130	3.9%	113	3.4%
無回答	20	0.6%	21	0.6%	19	0.6%

図表17 医師のリハビリに関する指示内容
(複数回答)(n=3,302)



図表18 リハビリ職員が提供しているリハビリの主な目的(n=3,302)



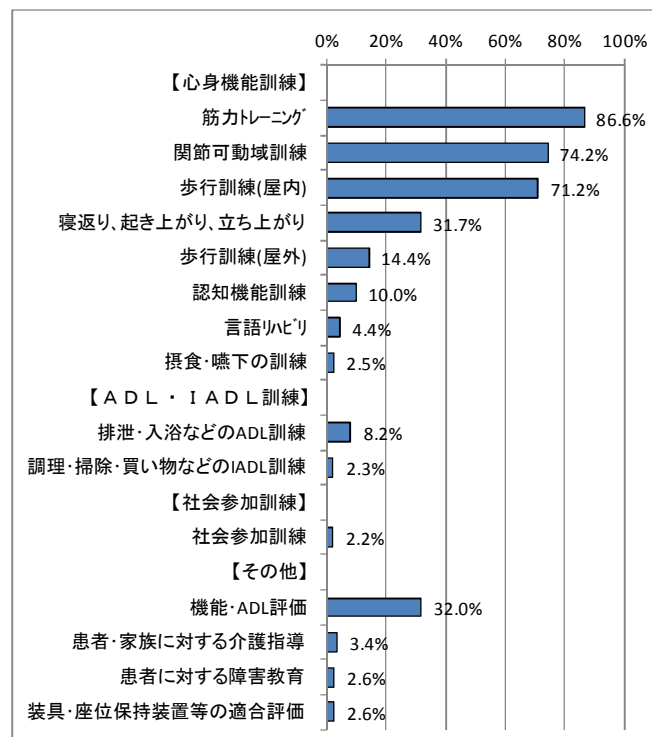
(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

【通所リハビリテーション事業所調査の結果】

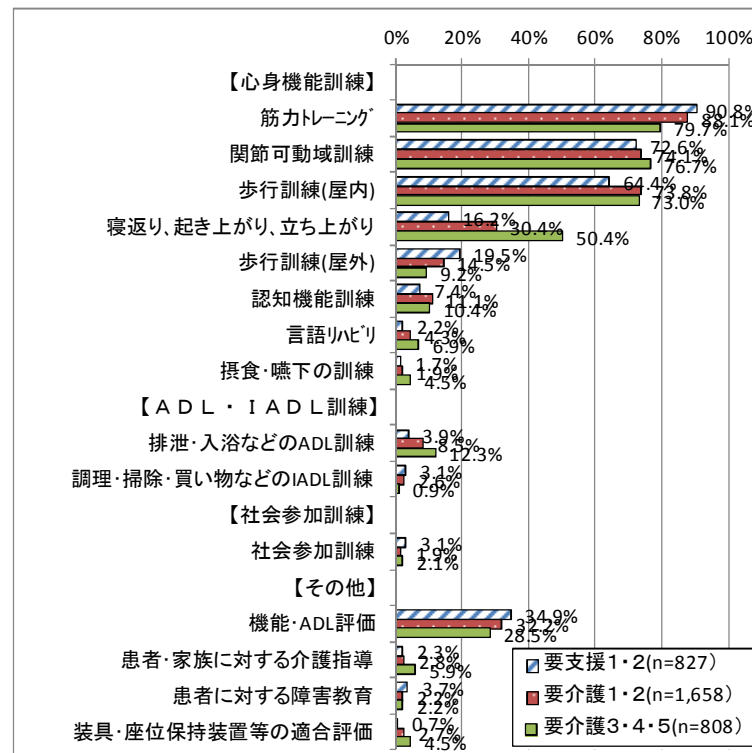
(リハビリの実施内容)

- リハビリの実施内容は、「筋力トレーニング」が86.6%、「関節可動域訓練」が74.2%、「歩行訓練(屋内)」が71.2%であった。心身機能訓練関連の実施率が高かった。「排泄・入浴などのADL訓練」は8.2%、「社会参加訓練」は2.2%であった。(図表19)
- 要介護度別にみると、「要介護3・4・5」では「寝返り、起き上がり、立ち上がり」の実施率が50.4%で他の要介護度に比べて高かった。(図表20)

図表19 リハビリの実施内容 (複数回答)(n=3,302)



図表20 要介護度別 リハビリの実施内容(複数回答)



※ 要介護度の不明が9件あったが、図中には記載していない。

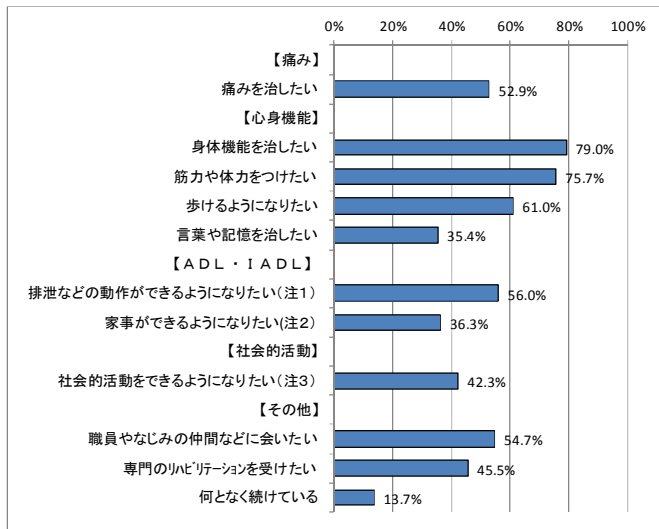
(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

【通所リハビリテーション事業所調査の結果】

(リハビリの継続理由: 本人回答)

- 本人のリハビリ継続理由は、「身体機能を治したい」が79.0%、次いで「筋力や体力をつけたい」が75.7%であった。「移動や食事、入浴や排泄などの動作ができるようになりたい」(注¹)が56.0%、「社会的活動をできるようになりたい」(注³)が42.3%であった。(図表21)
- 男女別にみると、「女性」では、「痛みを治したい」「家事ができるようになりたい」(注²)「職員やなじみの仲間などに会いたい」が「男性」よりも高かった。(図表22)
- 要介護度別にみると「移動や食事、入浴や排泄などの動作ができるようになりたい」(注¹)は「要介護3・4・5」で63.1%と他の要介護度に比べて高かった。(図表23)

図表21 本人回答:リハビリ継続理由
(複数回答)(n=2,725)

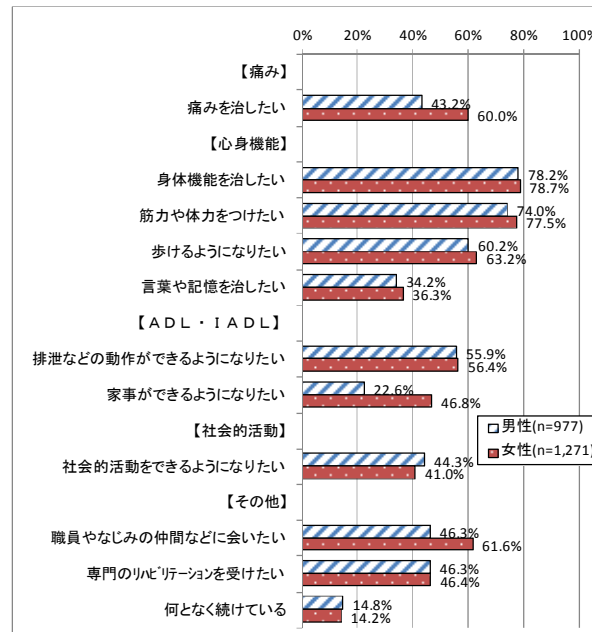


注1) 選択肢全文は「日常生活を送る上での基本的な動作(移動や食事、排泄、入浴、着替えなど)ができるようになりたい」

注2) 「買い物や掃除、料理など家事ができるようになりたい」

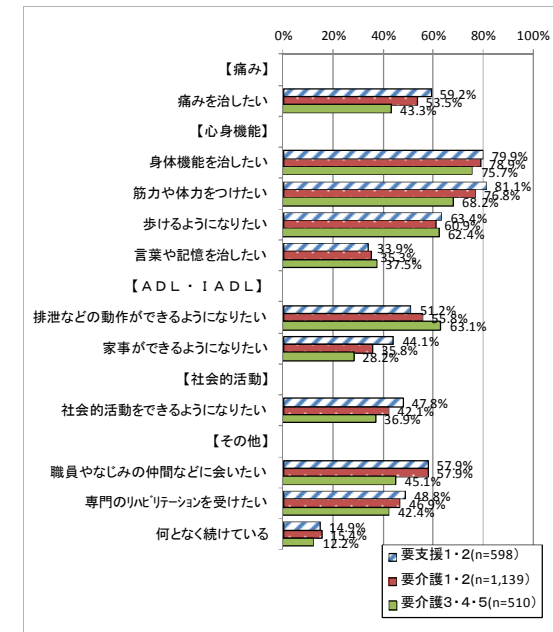
注3) 「病気やけがになる前に行っていった趣味活動や仕事をするなどの社会的活動をできるようになりたい」

図表22 本人回答:男女別
リハビリ継続理由(複数回答)



※ 性別の不明が477件あったが、図中には記載していない。

図表23 本人回答:要介護度別
リハビリ継続理由(複数回答)



※ 要介護度の不明が478件あったが、図中には記載していない。

(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

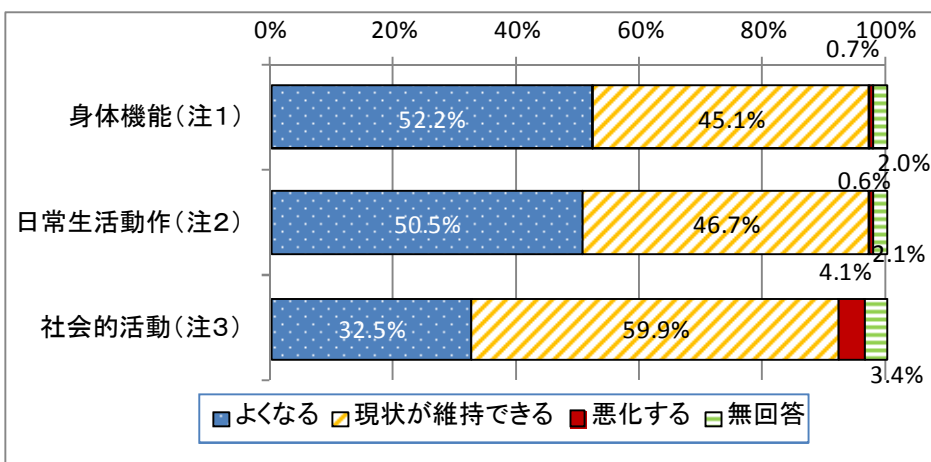
【通所リハビリテーション事業所調査の結果】

(リハビリによる変化・効果(見通し))

○ 本人は、リハビリにより「身体機能」が「よくなる」と思っている割合が52.2%で、「日常生活動作」については50.5%、「社会的活動」は32.5%であった。(図表24)

○ リハビリ職員は、リハビリにより「心身機能」が「向上する」と考えている割合が20.7%で、「ADL・IADL」は15.6%、「社会適応能力」は8.2%であった。(図表25)

図表24 本人回答:リハビリによる変化の見通し(n=2,725)

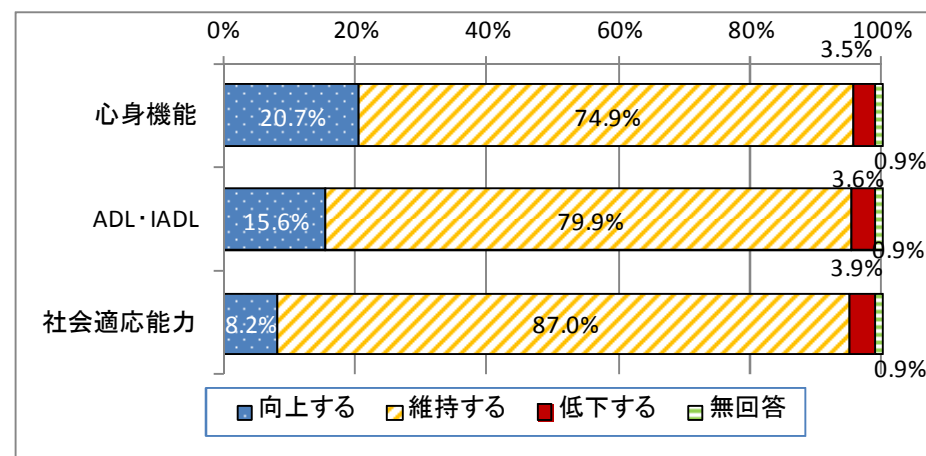


注1)設問全文は「リハビリを受けることで、あなたの「身体機能(麻痺や関節の動きなど)」はどのようになると思っていますか。

注2)「リハビリを受けることで、「日常生活を送る上での動作(移動、食事、排泄、入浴、着替えなど)」はどのようになると思っていますか。

注3)「リハビリを受けることで、「病気やけがになる前に行っていた社会的活動(趣味活動や仕事をするなど)」はどのようになると思っていますか。

図表25 リハビリ職員回答:リハビリによる変化の見通し(n=3,302)



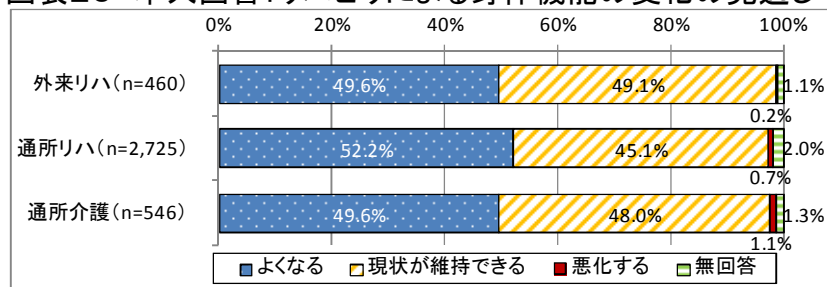
注)設問文は「あなたからみたリハの実際の効果」

(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

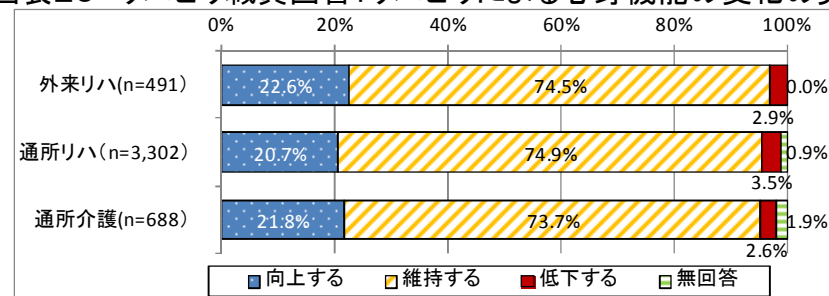
(リハビリ実施による変化の見通し: 外来リハ・通所リハ・通所介護の比較)

○ リハビリ実施による身体機能等の変化の見通しについては、本人・リハビリ専門職ともに、3サービス間で大きな差はみられなかった。(図表26～31)

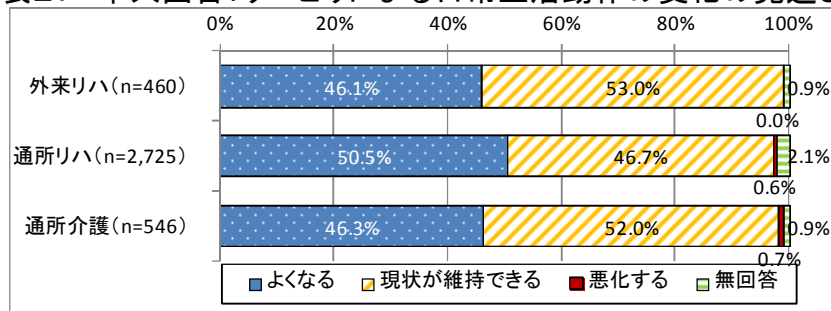
図表26 本人回答: リハビリによる身体機能の変化の見通し



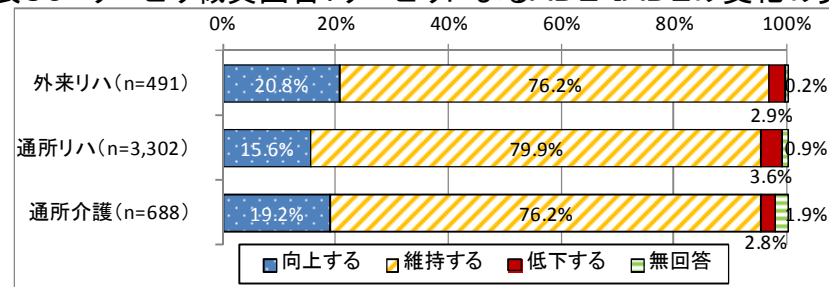
図表29 リハビリ職員回答: リハビリによる心身機能の変化の見通し



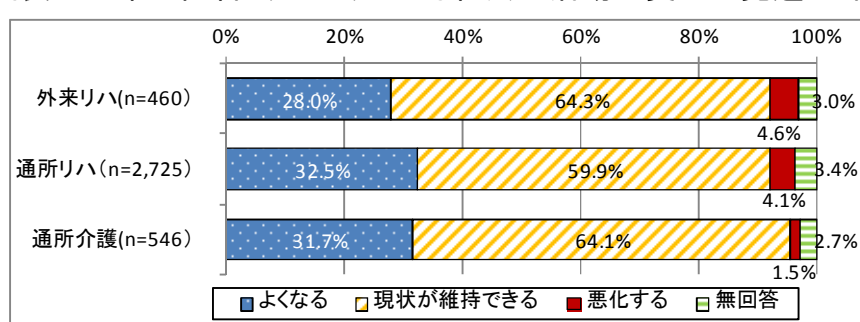
図表27 本人回答: リハビリによる日常生活動作の変化の見通し



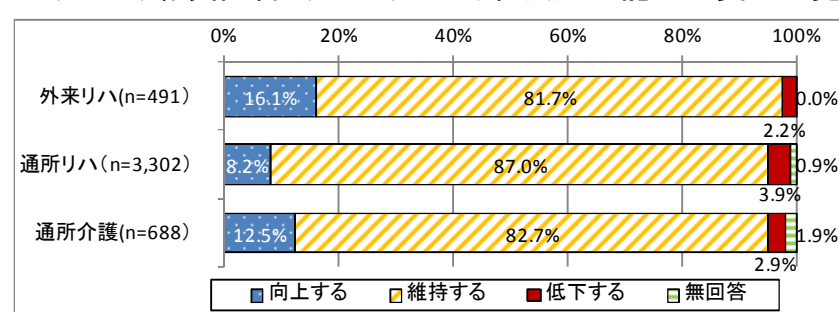
図表30 リハビリ職員回答: リハビリによるADL・IADLの変化の見通し



図表28 本人回答: リハビリによる社会的活動の変化の見通し



図表31 リハビリ職員回答: リハビリによる社会適応能力の変化の見通し



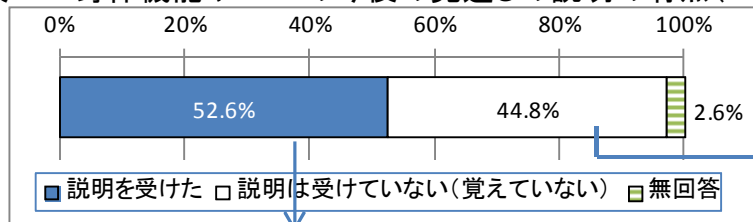
(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

【通所リハビリテーション事業所調査の結果】

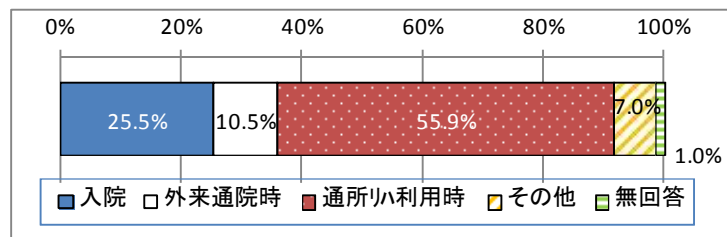
(身体機能や日常生活を送る上での動作の見通しに関する説明: 本人回答)

- 身体機能やADLの今後の見通しについて「説明を受けた」が52.6% (図表32)、説明時期は「通所リハ利用時」が55.9% (図表33)、説明者は「リハ職から」が47.2%であった (図表34)。
- 「説明は受けていない(覚えていない)」場合、説明を「受けたかった」が51.5%と約半数であった (図表35)。希望がある場合、時期は「通所リハ利用時」が44.4% (図表36)、説明者は「医師から」が45.3%であった (図表37)。

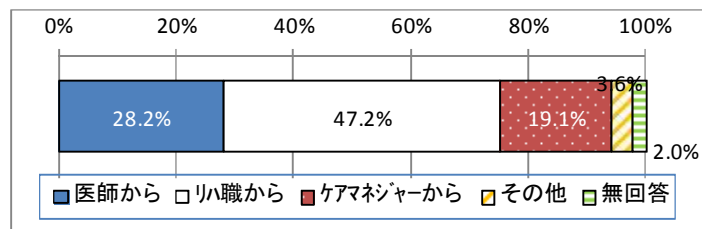
図表32 身体機能やADLの今後の見通しの説明の有無 (n=2,725)



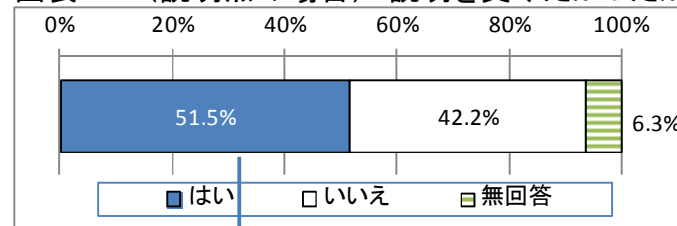
図表33 (説明有の場合) 説明時期 (n=1,433)



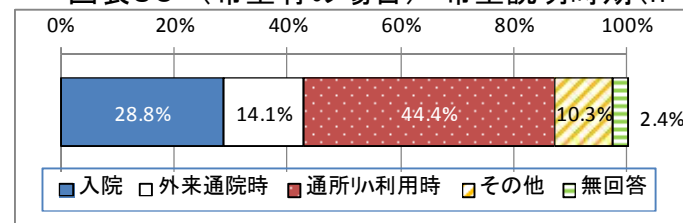
図表34 (説明有の場合) 説明者 (n=1,433)



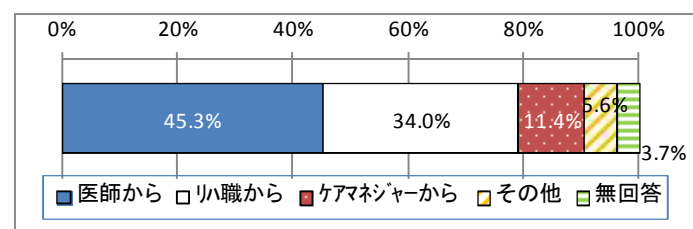
図表35 (説明無の場合) 説明を受けたかったか (n=1,222)



図表36 (希望有の場合) 希望説明時期 (n=629)



図表37 (希望有の場合) 希望説明者 (n=629)



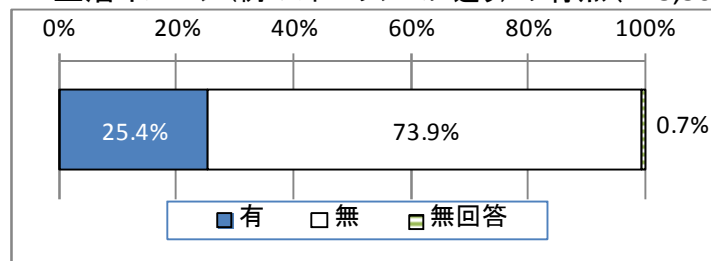
(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携 に関する調査

【通所リハビリテーション事業所調査の結果】

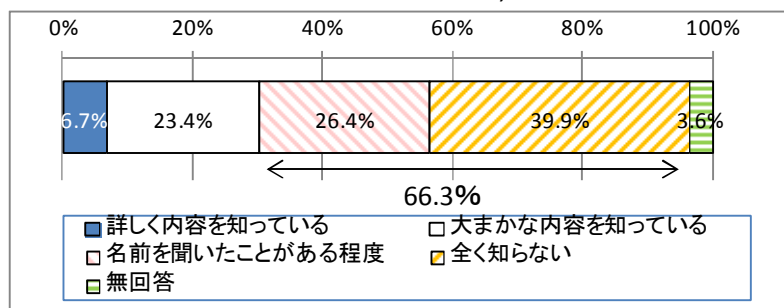
(通所リハ終了後の生活イメージ・利用者の地域資源の認知度等)

- リハビリ職員は、利用者の通所リハ終了後の生活イメージ(例:スポーツジムに通う)を「無」(もっていない)が73.9%であった。(図表38)
- 利用者は、定期的に行われる地域の体操教室や趣味活動の集まりについて、「名前を聞いたことがある程度」が26.4%と、「全く知らない」の39.9%をあわせて66.3%があまり知らなかった。(図表39)
- 地域の体操教室や趣味活動の集まりについて、通所リハの職員やケアマネジャーからの説明を受けたことが「ある」は22.0%であった。(図表40)
- 説明を受けた場合には、利用したいと「思った」が57.0%であった。(図表41)

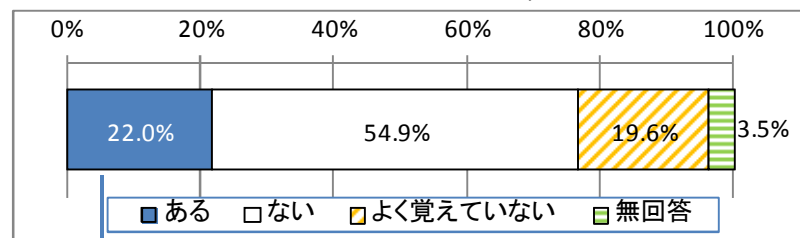
図表38 リハビリ職員回答:通所リハ終了後の利用者の生活イメージ(例:スポーツジムに通う)の有無(n=3,302)



図表39 本人回答:地域の体操教室や趣味活動の集まりの認知度(n=2,725)



図表40 本人回答:通所リハの職員等からの地域の体操教室等の説明(n=2,725)



図表41 本人回答:説明が「ある」場合:利用したいと思ったか(n=600)

